ごあいさつ

学校長　北垣 有信

2021 年度の『和歌山大学教育学部附属小学校紀要』を刊行します。

新しい小学校学習指導要領が 2020 年度から全面実施となり，「資質・能力」の育成をどう実践に結びつけるか試行錯誤の日々が始まった学校現場，時を同じくして「コロナ禍」が社会全体に大きな変革をもたらしました。従来の「あたり前」や「ルーティン」を捨て，あらゆる活動や行事を見直しながら，コロナ後を見据えた様々な取組がどの学校でも試みられたこの２年間です。しかし，時流はなお止まることを許しません。昨年３月に中教審答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」が公表され，以前のキーワード「主体的･対話的で深い学びの実現」が「個別最適な学び」と「協働的な学び」という二つのベクトルの強調へと移行し，「GIGA スクール構想」が加速する中で学校教育はまた次の展開へと向かっています。尤も，「個別最適な学び」と「協働的な学び」は古くて新しいテーマでもあります。学校教育は，いつも個性化・個別化の方向と共生・社会化の方向を両睨みで進んでいくのでしょう。

今年度は，研究主題「未来に生きて働く資質・能力の育成」を継続して４年目，副主題を～子どもが自己調整を行う場面を生むしかけ～と設定しました。昨年度までの探究力や省察性に焦点化したカリキュラム・デザインの構築から，さらに子どもを生き生きと学びに浸らせることを狙って，自己調整と「しかけ」という言葉を盛り込んでいます。私個人としては，この「しかけ」が授業者の真骨頂，実践研究の面白さかと考えています。子どもたちが授業者の何に反応し，悩んだり迷ったり一喜一憂したり，そして腑に落ちていくか，また高みに登っていくか，その楽しみを「しかけ」と呼んでいるように思うからです。どうか皆様には掲載の授業実践をぜひお楽しみいただき，様々な角度から忌憚のないご意見を頂戴して，今後なお一層の精進をしてまいりたいと思います。

末筆になりましたが，本校の教育・研究活動の推進にあたり，ご指導，ご助言をいただきました皆様に厚く御礼申し上げるとともに，今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。